

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	府中町立府中南小学校		
学校長氏名	竹下 比登美	栄養教諭氏名	佐久間 有佳
職員数	45 名	児童・生徒数	714 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食時間における課題は、次の3点である。

- ・全体的に給食をよく食べているが、個々に見てみると、苦手な食べ物があるときには、その食品だけでなく、その食品が入った料理を食べようとしなない児童もいる。
- ・食事のあいさつについては、ほとんどの児童が「いただきます」をしているが、落ち着いて「ごちそうさま」ができていない児童をよくみかける。
- ・児童によって食器を置く位置が違い、給食配膳図が活用されていない状況がある。

食に関する指導については、学年に応じて、地域やボランティアの方と連携し、継続して行っている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・給食残食率 1%以下
- ・食事のあいさつをする児童 80%以上
- ・配膳時の食器の位置の定着 70%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 給食残食率

○調理委託業者との連携

給食の残食率を正確にするため、給食の配缶を重量配缶にするよう、調理委託業者に作業変更を依頼し10月から実施した。

○給食時間での教室訪問

苦手な食べ物を少しでも食べることができるように、担任と連携しながら、声かけなどの個別指導を行った。また、残食量が多い学級を訪問し、児童の実態把握を行いながら、担任との連携を図った。

○担任と連携したT.T授業

- ・第1学年及び第2学年の特別活動の授業において、児童が下処理をした野菜（とうもろこし・空豆）を給食献立に取り入れ全校児童が食べる取組を通し、野菜に興味をもたせ、食べる意欲につなげた。
- ・第3学年の特別活動の授業において、バランスのよい食事の大切さについて知らせ、給食で好き嫌いなく食べることの意識付けを行った。また、参観授業では、朝・昼・夕のそれぞれの食事をバランスよく食べる大切さについて知らせ、家庭への啓発を行った。

○委員会活動との連携

給食委員会の児童が、残食がなかった日を学級ごとに集計し、その結果を掲示するとともに、

給食時間に放送をした。

【取組 2】(テーマ) 食事のあいさつをする児童

○委員会活動との連携

給食委員会の児童が、給食時間に学級を訪問し、食事のあいさつについてのアンケートを6月に実施した。10月の全校集会では、アンケート結果を発表したり、作成したポスターを校内に掲示したりした。その後、11月にアンケートを実施し、12月19日(食育の日)に給食放送でアンケート結果について知らせ、継続して取り組むよう伝えた。また、2月にもアンケートを実施し、食事のあいさつの定着を図った。2月のアンケート結果については、3月の委員会活動時に集計し啓発する予定。

○担任と連携したT.T授業

第6学年の特別活動の授業において、食事のあいさつの意味を知らせることにより、食べることは食べ物から命をいただいていることに気づかせ、心をこめて食事のあいさつをしようとする意識付けを行った。

【取組 3】(テーマ) 配膳時の食器の位置の定着

○委員会活動との連携

給食委員会の児童が、給食時間に学級を訪問し、学級に配布している配膳表を参考に食器を置いているかアンケートを6月に実施した。10月の全校集会では、アンケート結果を発表したり、児童が作成したポスターを校内に掲示したりした。その後、11月にアンケートを実施し、12月19日(食育の日)に給食放送で校内に呼びかけを行った。また、2月にもアンケートを実施し、配膳図を見て食器を置こうとする意識の定着を図った。2月のアンケート結果については、3月の委員会活動時に集計し啓発する予定。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

府中町内の栄養教諭、学校栄養職員で、府中町の統一メニューを検討し、タコタコライス、牛乳、府中朝パッ君スープ、みかんゼリーに決定した。

P T A保健委員主催の保護者対象の給食試食会で、府中町の統一メニューを実施した。試食前に今年度の「ひろしま給食100万食プロジェクト」についての説明を行うとともに、家庭での協力を依頼した。参加した保護者のアンケートでは、「特にタコタコライスは絶品!!家でも作ってみようと思いました。」「タコタコライス、すごくおいしかったです。子どもが帰ってきたら給食の話をしてみたいと思います。」「自分では考えつかない味付けで、今度、作ってみようと思いました。」などの意見があった。また、試食会の様子を学校だより及びP T A広報紙に掲載していただき、試食会に参加できなかった保護者にも周知することができた。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

○給食残食率

4月から9月まで給食は容量で配缶を行っており、給食残食量は重量で量っていたため、給食残食率は10月分から算出をした。10月から2月の間では、残食率は下がっていて、10月からの平均は0.8%であった。

	10月	11月	12月	1月	2月	平均
残食率 (%)	1.3	1.1	0.4	0.9	0.7	0.8

4月からの1日当たりの残食量をみると、二学期から徐々に減少している。一学期は、進級により量が増えて食べ切れなかった児童も、学年に応じた量を食べることができる児童が増えてきたことによるものだと考える。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1日当たりの 残食量(kg)	6.5	6.0	6.5	12.2	6.3	6.0	5.4	1.7	4.3	3.1

○食事のあいさつをする児童

6月のアンケートの結果では92.0%、11月のアンケートの結果では92.5%だった。学級別にみると23学級のうち7学級が全員あいさつをしていることを継続し、10学級があいさつをしていると答えた児童が増えていた。目標値80%以上を継続でき、今年度の目標は達成できた。

○配膳時の食器の位置の定着

6月のアンケート結果では52%、11月のアンケート結果では58%だった。目標値は70%以上のため、今年度の目標は達成できなかった。しかし、学級別にみると23学級のうち、配膳図を見て食器の位置を確認している児童が増えた学級が13学級あった。1年を通した取組の成果だと考える。

【課題】

○給食残食率

一年を通して給食残食率や給食残食量が減っているが、給食時間の教室訪問では、苦手な食べ物を食べようとしない児童や極端に量を減らす児童の様子をみかける。教室全体では、残食量が減ってきているが、食べられる児童が多く食べているという状況がある。教室全体の給食残食量を減らすことが目的になり、児童自身が自分の健康を考えた食事のとり方ができていないことにつながっている。

○配膳の食器の位置の定着

委員会活動と連携し、取組をすすめてきたが、今年度の目標値70%に達することができなかった。食器の位置を定着する必要性についての啓発や日々の給食時間での指導などの改善が必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

来年度の食育推進に向けた取組では、学校評価の指標に給食残食率を設定し、教職員の共通認識のもと、児童自身が自分の健康を考えた食事のとり方を身に付けることができるよう食に関する指導を行っていく。また、本校で推進している命の教育プログラムについて、教職員と連携して食に関する指導の年間計画を見直し、命と食を関連させた授業を計画していく。